

# SEKKOUZOU



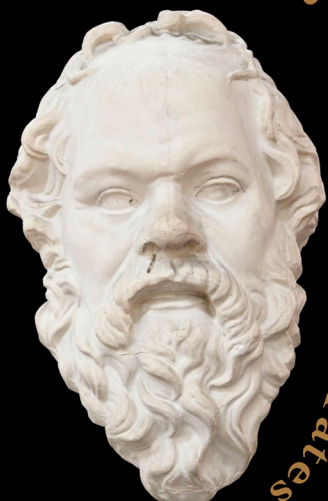
Who are You??



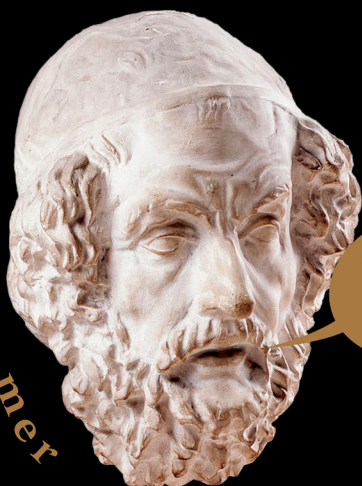
Venus de Milo



Lucius Verus

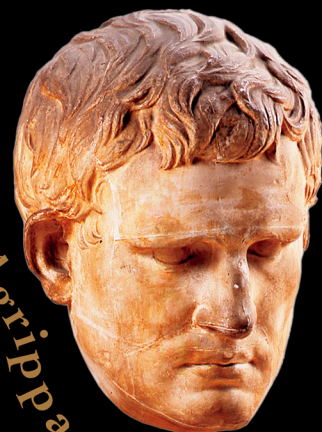


Socrates



Homer

いま、石膏像がアツい!!



Agrippa



Diana



Heracles



Laocoön

## パリからお越しのミロのヴィーナス —京都高等工芸学校のデッサン教育

Venus de Milo from Paris : Drawing Education at Kyoto College of Technology

2025年1月14日[火] - 2月22日[土]

Tuesday, 14th January, 2025 - Saturday, 22th February

京都工芸繊維大学美術工芸資料館

Museum and Archives, Kyoto Institute of Technology

開館時間：10:00-17:00 (入館は16:30まで)

休館日：日曜・祝日、1月18日(土)

入館料：一般200円、大学生150円、高校生以下無料

\*大学コンソーシアム京都に加盟する大学の学生・院生は学生証の提示により無料  
\*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、暇傷病者手帳または被爆者健康手帳をお持ちの方及び  
付添の方1名は無料 (入館の際は、手帳の提示をお願いします)

京都高等工芸学校シリーズ第4弾は、石膏像をとりあげます。

京都工芸繊維大学の前身校のひとつ京都高等工芸学校は、明治35年(1902)、京都の伝統産業の近代化と新しいデザインをうみだす人材育成を目的として開校しました。同校のデザイン教育の要はデッサン指導でした。伝統にとらわれない独自のデザインをうみだすための基礎能力として、実物の写生によりモノのカタチを正確にとらえることが重視されたのです。そこでモデルとして、海外から取り寄せられたのが《ミロのヴィーナス全身像》をはじめとする石膏像の数々でした。京都工芸繊維大学美術工芸資料館には、1794年開業のルーブル美術館ムラージュ工房やドイツのギプス・フォルメライ、また明治早期に東京赤坂で石膏像の製造販売を手がけた菊地鑄太郎(1859-1945)による石膏像など、開校初期に収集された11点の石膏像が残されています。これらに加え2020年には、戦後の収集品を含む40体をこえる石膏像が学内から発見されました。

開校当時、デッサンを軸とする「画学及び画学実習」を受け持ったのは、図案科の初代教授で洋画家の浅井忠(1856-1907)でした。浅井が青年期にまなんだ洋画塾、彰枝堂や日本初の美術学校として知られる工部美術学校では、海外から取り寄せた石膏像をつかったデッサン指導がおこなわれており、浅井はこうした教育のノウハウを積極的に取り入れました。

本展では、ルーブル美術館ムラージュ工房による《ミロのヴィーナス全身像》や菊地による《ラオコン像》など京都工芸繊維大学が所蔵する石膏像を一挙に公開するとともに、京都高等工芸学校の生徒によるデッサンをあわせて展示し、当時のデッサン教育の一端をご覧ください。

### 関連企画

## シンポジウム「デッサンモデルとしての石膏像」

明治～戦前期の美術教育機関における石膏像の果たした役割について考えます。

日時：2025年2月16日(日) 13:15～16:50 開場 13:00

会場：京都工芸繊維大学 60周年記念館 1階

\*入場無料、申込不要

### スケジュール

- 13:15 ご挨拶
- 13:20～14:20 基調講演「石膏模像小史 ～欧州から近代日本へ」  
金井直/信州大学人文学部・教授
- 14:20～14:50 報告「京都市立芸術大学の石膏像について」  
松井菜摘/京都市立芸術大学芸術資料館・学芸員
- 14:50～15:20 報告「京都工芸繊維大学の石膏像について」  
和田積希/京都工芸繊維大学美術工芸資料館・特任専門職(学芸員)

### 休憩

- 15:35～16:45 ディスカッション  
司会：並木誠士(京都工芸繊維大学美術工芸資料館・館長)
- 16:45 ご挨拶

\*当日、美術工芸資料館は閉館中ですが、シンポジウム終了後に1階展示のみご覧いただけます。



ルーブル美術館ムラージュ工房  
《ミロのヴィーナス全身像》  
c.1902 AN.0736

### 同時開催

「畠山崇の写真2－京都を切り撮る－」  
2025年1月20日(月)～5月31日(土)

### お問い合わせ

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町  
TEL 075-724-7924 <https://www.museum.kit.ac.jp/>

### 交通

- ・市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車1番出口から徒歩約8分
- ・京都バス「高野泉町」下車徒歩約10分
- ・叡山電車「修学院駅」下車徒歩約15分

By Subways: Take Karasuma Line Subway to "Matsugasaki" Station, exit from Exit 1 and walk east for 8 minutes.

By Kyoto Bus: Get off at "Takano-Izumicho" stop. Cross the Takano river and walk west for 10 minutes.

By Eizan Railway: Get off at "Shugakuin" Station and walk west for 15 minutes.

Museum and Archives is located in front of the main entrance of KIT west campus.



### 表面掲載作品(左上から右に)

- ・作者不詳《老人胸像》 c.1902か oAN.0732
- ・ルーブル美術館ムラージュ工房《ミロのヴィーナス胸像》 c.1902 AN.0731
- ・菊地鑄太郎《大顔面(ウェルス帝)》 c.1902-戦前
- ・菊地鑄太郎《ソクラテス胸像》 c.1904 oAN.0934
- ・菊地鑄太郎《ホーマー像》 c.1903 AN.0827
- ・ルーブル美術館ムラージュ工房《アグリッパ(農夫)胸像》 c.1902 AN.0733
- ・菊地鑄太郎《ダイアナ半面》 c.1903 oAN.0830
- ・菊地鑄太郎《獅子冠女神胸像(ヘラクレス)》 c.1927 oAN.1871
- ・菊地鑄太郎《ラオコン像》 c.1903 AN.0826

\*すべて京都工芸繊維大学美術工芸資料館蔵

